

事業コード	H25-建-継-23		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	総合流域防災事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	二級河川 大沢川		担当課長名	河川砂防課長 齋藤 春美
箇所名	にかほ市平沢		担当者名	副主幹(兼) 班長 川村 潤
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

1. 事業の概要

事業期間	S60 ~ H28 (32年)		総事業費	40.9億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長L=3,932m 計画高水流量Q=160m ³ /s (1/10)					
事業の立案に至る背景	大沢川は、流域に烏海山を抱え、上流部は河床よりも堤内地が低い「天井河川」をなしている急流河川であり、集落や圃場のある中・下流部は比較的緩くなるものの、蛇行が著しく河積も狭小であるため、豪雨の度に家屋や田畑の浸水被害が発生していた。このような浸水被害の未然防止や被害軽減を図るため、昭和60年に小規模河川改修事業として採択され、現在は総合流域防災事業として河川改修を進めている。					
事業目的	地域住民の生命と財産を守るため、河積確保や湾曲河道是正等の河川改修を実施して浸水被害の解消を図り、安全で安心できる地域づくりを推進する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		4,080,900	4,080,900	0	
	経費 内訳	工事費	2,900,500	2,900,500	0	
		用補費	720,300	720,300	0	
		その他	460,100	460,100	0	
	財源 内訳	国庫補助	2,040,450	2,040,450	0	
		県債	1,836,400	1,836,400	0	
その他		0	0	0		
事業内容		掘削工 護岸工 橋梁工 排水工	掘削工 護岸工 橋梁工 排水工			
事業の進捗状況	全体計画 43.4億円 平成24年度末時点投資額 26.8億円 進捗率 62.0%					
事業推進上の課題	浸水被害の解消を図るため、狭小部となっている国道橋及び鉄道橋の架け替えの実施が急務であるが、県全体で優先される他河川の事業進捗度合いを見ながら本事業による国道橋、鉄道橋の架け替えを実施予定であり、事業進捗が遅滞している。					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」において、5つの戦略を支える横断的取り組み(4)社会資本整備の推進の中に、「水害・土砂災害への対応力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	河道拡幅及びその法線の是正が終了している国道橋より上流の区間は、ある程度の治水効果が発現されているものの、鉄道橋を含む国道橋下流部がほぼ未着手のため、早急に下流区間の改修を実施する必要がある。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率=改修延長/要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値 a	45.2 %	データ等の出典		県 河川砂防課調べ	
	実績値 b	45.5 %				
達成率 b/a	100.7 %	把握の時期		平成25年 3 月		

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	上流区間に関しては完成しているが、住宅が密集する下流の改修には未着手の部分が多い。浸水被害の想定される人家戸数は377戸と多く、また、国道7号やJR羽越本線等の重要交通も浸水する恐れがあるため、事業実施の必要性は高い。	26点
緊 急 性	現況流下能力が低く、当該区域は重要水防区域に位置付けられていることから、事業実施の緊急性は高い。	10点
有 効 性	現川改修であることから経済的に有利であり、河道の拡幅等により治水効果が発現して完成区間の浸水被害が軽減されていることから、有効性は高い。また、一部の護岸工を緩傾斜化するなどして親水性の向上に努めている。	15点
効 率 性	事業の費用対効果は25.9であり、効率性は高い。また、建設廃材や掘削残土の有効利用、既設護岸を利用した河道計画などにより、コスト縮減に取り組んでいる。	15点
熟 度	地元住民の河川改修実施に関する意向が強い。また、現況低水路における瀬や淵の保全や、植生の回復が見込まれるブロックを使用するなど、河川環境に配慮している。	14点
判 定	ランク (<input checked="" type="radio"/> I <input type="radio"/> II <input type="radio"/> III) 地元からの要望が高く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、本事業は高く評価できる。	80点
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業実施は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H25-建-継-23)
箇所名 (にかほ市平沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49～10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59～10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	3	
		2～1施設	3		
		無し	0		
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み	5	3	
協議中であるが特段問題ない		3			
策定に着手していないが予定がある		1			
予定無し		0			
計			30	26	
緊急性	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	7	
		40～59%	7		
		60%以上	5		
	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	
		評定基準区分B	3		
計			15	10	
有効性	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3	
地域開発の計画がある		1			
計			15	15	
効率性	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	該当項目数	3項目以上	5	5	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計			15	15	
熟度	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	3	
		参画している	3		
		参画していない	0		
	進捗率	計画より進捗している	10	3	
		概ね進捗 (90～100%未満)	5		
計画より遅れている (90%未満)		3			
環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	3	システム=秋田県公共事業環境配慮システム	
	システムでの環境配慮事項が1～2事項	3			
	システムでの環境配慮事項がない	0			
計			25	14	
合計			100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		